静岡選抜、大新高に惜敗

終了間際に猛反撃

1点差に迫る 岡本、連続の2ゴール

大新高 3（2-1 1-2）2 静岡選抜

【大】大新高 4・2・4
【静】静岡選抜 4・3・3
▽交代【大】山脇（谷島）牧田（今井）岡本（落合）滝水（白滝）大石（杉本）
【静】関屋秀（金指）金原（三島）辛吉耕（田織欽）峻成（静学）
▽得点者【大】金栄相、宋秀一、関屋秀【静】岡本2
▽アシスト【大】田織欽【静】大石

静岡選抜対大新高の甲戦欽の突進をタックルしてはばむ山脇選手（左側）。中央は大石選手＝ソウル市立運動場で

【ソウル＝二十日＝山中記者】日韓親善高校サッカー大会第3戦、静岡選抜対大新高の試合は、二十日午後一時からソウル市立運動場で行われ、3―2で静岡選抜チームが敗れた。試合は前半ディフェンスの甘さを突かれて2点を失い、大新高のペース。後半も一点を追加され一方的な試合になるかと思われたが、34分、37分に岡本がつづけてシュートを決め、終了間際に2点差に迫る猛反撃をしかけたが、惜しくも3―2で敗れた。この結果選抜チームの通算成績は1引き分け2敗となった。選手団は二十一日午後2時帰国する。

静岡選抜は、大新高の堅守の前に攻めあぐんだが、この試合唯一の見せ場で、両者の力は得点差以上に大きかったといえよう。

後半終了間際、たてつづけに2ゴールと大新をおびやかした静岡選抜だったが、終了6分前になっても静岡はゴールを割れず0―3、試合はこのまま"完敗"という形になったかに見えた。後半望月吉彦オープンにドリブルで突っ込み、代わったばかりの大石にパス、大石のセンタリングに岡本がヒタリと合わせて待望のゴール・イン。

これを契機に試合の流れは一転した。攻いくさりを引きずっていたような静岡イレブンの足どりが軽快になり、大新陣内に攻め込んだ。2点目は初得点成功から5分もたたなかった。左CKを望月が絶妙のコントロールで、ゴール前へ。GKのパンチング・ボールは混戦になったが、再び岡本が指手バックスに入ってGKの左を破る会心のヘディング・シュートを決め1点差に詰めよった。決定的チャンスが二度と岡本の所へ巡ってくるあたり、まさに"ラッキーボーイ"。

波に乗った静岡は終了寸前、望月のシュートがクロスバーに当たり、はねかえったところを素早くけり込むという切れ味鋭い二段攻撃を披露したが、GKに好指されついに追いつくことはできなかった。

前半の2失点は、いずれもバックスとGKがゆき合った一瞬のスキをつかれた失点で、これがなければ試合の流れも変わっていたかもしれない。しかし冷静に見て見劣りにコントロールされたパス、素晴しいボールへの寄りと球離れ、攻守の切り替えの早さなど、静岡の「遠征疲れ」を差し引いても大新が完全に一枚上。優勝は中堅を作ることができず、自陣ゴール前にくぎ付けになる場面が多かったが、これらやむを得なかったといえよう。

大新高の大応援団の前に張られた「必勝」の横幕、静岡から応援にかけつけた県選抜チームの父兄が持参したもの

防御の甘さが出た

杉田監督の話　一番心配していたディフェンスの甘さが最後の試合に出てしまった。初めの一点が特に痛かった。これで守りが崩れてしまった。きょうの試合は乗谷のがんばり立った。これで試合を終えたが、対戦3チームとそれぞれ特色があり、非常に勉強になった。韓国選手はいずれも個人技が高く、ボールコントロールがうまい上、戦術眼もすぐらしいものを持っており感心した。勝敗は別にしてサッカーを通じての日韓親善の目的は十分果たすことができたと思う。

収穫は大きかった

2得点の岡本選手の話　監督に最後までがんばれとハッパをかけられたので気合が入って、緊張とは慣れない雰囲気のため疲れが出て動きはよくないが、今度の遠征での収穫は自分なりに大きかったと思う。これからはバックスとうまい合わせながら苦しい体制からでもシュートが打てるよう練習していきたい。監督選手との交歓会が特に楽しい思い出になった。

切り替えが遅い静岡

金祥振大新高監督の話　静岡チームの2点は、基本に忠実そのものの点では立派だ。ただ攻めと守りの切り替えが遅く、過激プレーが十分できていない。きょうの試合では9番（栄志3）10番（望月）がテクニックも走力もあり特に目に付いた。静岡チームはパスも早く、攻守にスピードもあると思う。昨年日本に遠征したが、その時の対戦相手の方が一枚上だったと思った。

スタンドから

評判良かった望月

韓国人記者もほめる

○…記者席で特に評判が良かったのはFWの望月選手（藤枝）＝浜松東部中出身＝身長170㌢、体重63㌔の体格。韓国選手のマークを外し、スピードに乗ったドリブルでゴール前に突っ込む強烈なシュートを放つ。荒材の韓国人記者たちが、なんという名前の選手かとしきりに質問、また韓国選抜協会関係者も異口同音にすばらしい選手だとほめていた。天性のセンスのよさを持っており将来が楽しみな選手だ。またFBの白滝（静学）＝清水三中出身＝FBの郷下（浜名）＝浜松湖東中出身＝らも活躍を期待していた。

友情の声援もしきり

○…大新高応援団の陣取った八ックスとGKがゆき合った一瞬のスキをつかれた失点で、これがなければ試合の流れも変わっていたかもしれない。しかし冷静に見て見劣りにコントロールされたパス、素晴しいボールへの寄りと球離れ、攻守の切り替えの早さなど、静岡の「遠征疲れ」を差し引いても大新が完全に一枚上。優勝は中堅を作ることができず、自陣ゴール前にくぎ付けになる場面が多かったが、これらやむを得なかったといえよう。

日韓親善高校サッカー

（最終戦）

広東省では引き分け

日本高校選抜サッカー

【北京二十日＝共同】日本高校サッカーチームは二十日、広州市越秀山体育場で訪中第2戦を行い、広東省高校選抜チームと1―1で引き分けた。日本の戦績は1勝1分け。

2014年3月31日付静岡新聞